



第44回 埼玉県臨床細胞学会 埼玉県臨床細胞医会 学術集会

抄 録 集

日 時 : 2026年(令和8年)4月25日(土) 13時30分~17時00分
受付開始 12時30分

会 場 : RaiBoC Hall (さいたま市民会館おおみや)

参加費 : 1,900円

学術集会長 金田 佳史 (JCHO 埼玉メディカルセンター 産婦人科)

主 催 : 埼玉県臨床細胞学会・埼玉県臨床細胞医会

後 援 : 埼玉県医師会・埼玉県産婦人科医会

===== 取 得 単 位 =====

- 日本臨床細胞学会細胞診専門医 2単位
- 日本専門医機構 学術集会参加 1単位
- 日本専門医機構 産婦人科領域講習受講 1単位
- 日本臨床細胞学会細胞検査士単位 10単位 (JSC) , 4単位 (IAC)

参加登録・懇親会のお知らせについて

1. 参加登録について

・メネルジアより参加登録をお願いいたします。埼玉県臨床細胞学会から配信されるメール内の案内から参加登録が可能です。また、埼玉県臨床細胞学会ホームページにも詳細を掲載予定です。

埼玉県臨床細胞学会 HP【<https://saitama-scc.jp/>】

2. 懇親会のお知らせ (事前申し込みで満席となりました)

・ささやかではございますが、会終了後に懇親会を予定しております。下記の Google フォームより参加登録をお願いいたします。

なお、人数の都合により当日の参加受付ができない場合がございますので、あらかじめご了承ください。

会 場：【南欧田舎料理のお店タパス】

埼玉県さいたま市大宮区大門町 2-109 大越ビル 1F

会 費：【5,000円】

時 間：17:30～

事前参加登録 URL：【<https://forms.gle/bFaGj8VMUznNVvxe9>】



開催に際しての注意点とお願い

1. 当日の会場参加についての注意点

- ・当日はマスク着用の上ご来場ください。
- ・会場に入る際は手指消毒，検温にご協力ください。

2. 発表形式について

1) 特別公演

- ① スクリーンは1面で，講演にはパソコン及びプロジェクター各1台を使用します。
- ② 会場に設置するパソコンはWindows搭載機のみです。
- ③ ご講演データはUSBメモリにてお持ちください。
(持ち込みのパソコンをご希望の場合，Windows搭載機のみ対応可能です)
- ④ ご講演に使用できるデータはMicrosoft Power Pointで作成したものに限りです。
- ⑤ Windowsに標準搭載されているフォントを推奨いたします。
(Macintoshでスライドを作成される場合，文字がずれることがありますのでご注意ください)
- ⑥ 発表データは学術集会当日13：15までに演題受付へご提出願います。
(発表データの受付は12：30より開始いたします)

2) 一般演題

- ① 当日は13：35から13：55のセクションで口述発表していただきます。
- ② 発表時間は7分，質疑応答3分の計10分です。
- ③ スクリーンは1面で，講演にはパソコンおよびプロジェクター各1台を使用します。
- ④ 会場に設置するパソコンはWindows搭載機のみです。
- ⑤ 発表データはUSBメモリにてお持ちください。
- ⑥ 発表に使用できるデータはMicrosoft Power Pointで作成したものに限りです。
- ⑦ Windowsに標準搭載されているフォントを推奨いたします。
(Macintoshでスライドを作成される場合，文字がずれることがありますのでご注意ください)
- ⑧ 発表データは学術集会当日の13：00までに演題受付へ提出してください。
(発表データの受付は12：30より開始いたします)

プログラム

I. 開会の辞 13:30 ~ 13:35

集会長：金田 佳史 (JCHO埼玉メディカルセンター 産婦人科)

II. 一般講演 13:35 ~ 13:55

座長：川崎 朋範 (埼玉医科大学国際医療センター 病理診断科)

1) 細胞診教育での汎用生成AIの活用

○ 菊地 亮, 阿部 健一郎, 松本 健宏, 佐々木 紀子, 甲斐田 久仁子, 大塚 麻実子, 長谷川 恵美,
工藤 春華, 江川 徹平, 渡辺 日菜子, 関 れいし
戸田中央病理診断科クリニック

2) 腺癌との鑑別を要した 腺肉腫 の一例

○ 保戸塚 唯, 山崎 泰樹, 勝平 理子, 小野 寛文, 松本 絵里香, 松本 祐弥, 並木 幸子, 岡村 卓也,
椎名 愛優, 佐藤 陽子, 松嶋 惇, 佐藤 泰樹, 下山田 博明, 上田 善彦, 伴 慎一
獨協医科大学埼玉医療センター 病理診断科

III. 特別講演 13:55 ~ 14:55

座長：金田 佳史 (JCHO埼玉メディカルセンター 産婦人科)

講演：今野 良 先生 (自治医科大学附属さいたま医療センター 名誉教授)

「HPVワクチンの子宮頸がん・HPV関連がんの予防と治療に対する影響 ～細胞診の現場に訪れる変革と、

我々に求められる新たな役割～—HPV単独検診時代における細胞検査士の新たな職能と地位向上—」

— 休憩 — (5分)

IV. 総会 15:00 ~ 15:45

業務報告, 会計報告, その他

— 休憩 — (5分)

V. スライドカンファレンス 15:50 ~ 16:50

座長：桂田 由佳 (JCHO埼玉メディカルセンター 病理診断科)

金守 彰 (埼玉県済生会川口総合病院)

婦人科

出題 自治医科大学附属さいたま医療センター 病理部 細田 健太

解答 所沢美原総合病院 栢森 恵子

呼吸器

出題 さいたま赤十字病院 病理部 佐藤 沙知子

解答 埼玉県立循環器・呼吸器病センター 星野 香海

その他

出題 埼玉県済生会川口総合病院 臨床検査科 病理 大谷 奈穂

解答 草加市立病院 成田 真一

下記Googleフォームでも症例画像が閲覧と投票ができます。



また、当日は解答の前にQRコードを用いた投票ツールを使用します。ぜひともご参加ください。

VI. 次期学術集会長あいさつ 16:50

次期集会長：絹川 典子 (上尾中央総合病院)

VII. 閉会の辞 16:55

実行委員長：桂田 由佳 (JCHO埼玉メディカルセンター 病理診断科)

特別講演

「HPV ワクチンの子宮頸がん・HPV 関連がんの予防と治療に対する影響

～細胞診の現場に訪れる変革と、我々に求められる新たな役割～

—HPV 単独検診時代における細胞検査士の新たな職能と地位向上—

自治医科大学附属さいたま医療センター 名誉教授

今野 良

1. はじめに

わが国における子宮頸がん予防策は、2022 年の HPV ワクチン積極的勧奨再開およびキャッチアップ接種の実施、そして 2024 年の厚生労働省指針改定による「HPV 単独検診」の導入という、二つの大きな転換点を迎えた。これにより、臨床細胞診の現場が直面する課題は、従来の「全例スクリーニングによる病変抽出」から、「HPV 陽性例に対する高度なトリアージとマネジメント」へと劇的にシフトしている。本講演では、HPV ワクチンの普及が細胞像に与える影響を整理するとともに、新検診体制下における細胞検査士の職能の変化と、それに伴う専門的地位の向上について考察する。

2. HPV ワクチン普及による一次予防の影響と細胞像の変化

HPV ワクチンの普及は、子宮頸がんの原因となる主要なハイリスク型（HR-HPV）の感染を 90%以上抑制する。この一次予防の浸透は、細胞診の現場に二つの大きな変化をもたらす。第一に、高度異形成（CIN2/3）以上の病変罹患率の劇的な低下である。これにより、従来の細胞診単独検診（パップテスト）では、陽性的中率の低下が避けられない。スクリーナーは、極めて低い有病率の中で稀少な異常細胞を同定しなければならず、集中力の維持と精度管理において新たな困難に直面する。第二に、細胞像の質的な変化である。16/18 型に起因する典型的な HSIL が減少する一方で、非 16/18 型による軽微な形態変化や、ワクチン未接種世代に残存する多様な病変が相対的に目立つようになる。炎症性変化や萎縮性変化との鑑別はより繊細さを増し、形態学的な習熟度はこれまで以上に診断の質を左右する要因となる。

3. HPV 単独検診の導入とスクリーニング業務からの「解放」

2024年より自治体検診の選択肢に加わった HPV 単独検診は、細胞検査士の業務構造を根本から変えるものである。従来の細胞診単独検診では、細胞検査士の業務の大部分は、異常を認めない膨大な数（95%以上）の陰性（NILM）検体を鏡検することに費やされてきた。これは公衆衛生上極めて重要な役割であるが、高度な専門教育を受けた技術者が「異常がないことを確認する」という反復作業に多大なリソースを割いている現状があった。しかし、HPV 単独検診への移行により、細胞検査士が鏡検するのは「HPV 陽性」と判定された検体に限定される。これにより、細胞検査士は「砂の中から金を探す」ような過酷な全例スクリーニングから解放される。このリソースの余力は、そのまま個々の症例に対する診断の深化へと転換されるべきである。

4. 専門性の高度化：細胞検査士の地位向上への道

スクリーニング業務からの解放は、細胞検査士の職能を「作業」から「診断」へと昇華させる。HPV 陽性検体を対象とする細胞診は、単なるスクリーニングではなく、臨床方針を決定する「トリアージ」としての重責を担うことになる。

4.1 診断コンサルタントとしての役割

HPV 陽性例において、その細胞像が ASC-US なのか、LSIL、あるいは HSIL なのかという判定は、コルポスコピーや組織診といった侵襲的検査の必要性を決定付ける。細胞検査士は、HPV タイピングの結果と細胞形態を総合的に解釈し、臨床医に対して「この症例は追跡可能か、あるいは即座に治療を検討すべきか」という具体的な診断戦略を提示する「コンサルタント」としての役割を強化することになる。

4.2 形態学の専門家としての自律性

AI 技術の導入が進む中でも、複雑な背景を持つスライドの最終的な判断は人間に委ねられる。HPV 感染という生物学的背景が判明している状況下で、微細な核の性状変化や細胞質の角化傾向を読み解く行為は、まさに形態学の真髄である。作業時間の短縮は、一例一例に対する深い考察を可能にし、細胞検査士が単なる検査技師の枠を超え、病理診断プロセスにおける不可欠な専門家としての地位を確立する根拠となる。

5. HPV 関連がんへの領域拡大

HPV の影響は子宮頸がんのみに留まらない。近年、中咽頭がん、肛門がん、外陰がんなどにおける HPV の関与が注目されており、これらの領域でも細胞診の重要性が増している。子宮頸がん検診で培った「HPV 感染に伴う細胞変化を捉える技術」は、他領域のがん予防・早期発見においても極めて有用な専門スキルである。多職種と連携し、全身の HPV 関連疾患のプロフェッショナルとして活動の場を広げることは、細胞検査士の職域拡大と社会的プレゼンスの向上に直結する。

6. 展望と結語

HPV ワクチンの普及と HPV 単独検診の導入は、細胞診の終焉を意味するものではない。むしろ、細胞診がより高度で精密な「診断のコンパス」として再定義されるプロセスの始まりである。低有病率下での精度維持や AI との共存、そして新たな細胞診報告様式への対応など、解決すべき課題は少なくない。しかし、スクリーニング業務という重労働から解放され、より知的で高度な診断業務に注力できる環境が整うことは、細胞検査士の職能を飛躍的に高める好機である。臨床細胞学会員は、この歴史的な公衆衛生の転換点において、形態学の専門家としての誇りを持ち、医療チームの中でより高く評価される存在へと進化していかなければならない。がんを「予防し、管理する」時代の中心的な担い手として、私たちの技術と地位を次世代へ繋いでいくことが、今まさに求められている。

一般演題 -1

細胞診教育での汎用生成 AI の活用

- 菊地 亮, 阿部 健一郎, 松本 健宏, 佐々木 紀子, 甲斐田 久仁子, 大塚 麻実子, 長谷川 恵美,
工藤 春華, 江川 徹平, 渡辺 日菜子, 関 れいし
戸田中央病理診断科クリニック

近年、様々な分野で AI 技術の導入が進み、医療分野でも内視鏡や放射線画像診断領域で応用されている。病理・細胞診断分野においても、画像認識や判定支援が期待を集めている。しかしその一方で、細胞検査士あるいは病理医の教育現場において本質的に重要である「形態をどのような言葉で記述し、他者と共有するか」という記述力・言語化能力については、十分に議論されてきたとは言い難い。特に核形不整、クロマチン性状、核縁変化などの所見は、経験に依存した感覚的表現にとどまりやすく、教育や指導の場面で認識のズレを生じる要因となっている。

汎用生成 AI は自然言語や画像による指示と出力が可能であり、入力された画像を自然言語で描写することも可能である。そこで、AI を診断の代替や自動化の手段としてではなく、「形態記述を支援し、思考過程を可視化する補助ツール」として活用する可能性に着目する。具体的には、同一の細胞像に対して AI が提示する複数の記述表現を比較・検討することで、観察視点の言語化や記述の再現性を高める試みを紹介する。これにより、従来は暗黙知として処理されがちであった形態認識を、共有可能な知識へと変換することが可能となる。

とりわけ中堅細胞検査士・病理医は、自身の判定精度は安定している一方で、後進への教育や所見の説明に難しさを感じる場面も多い。AI を介在させることで、自らの観察プロセスを客観的に振り返り、教育に活用できる視点が得られると考えられる。実例を交えながら、AI 活用が細胞診教育にもたらす可能性と限界について考察し、日常業務および指導の質向上につながる実践的な視点を提示したい。

一般演題 -2

腺癌との鑑別を要した 腺肉腫 の一例

- 保戸塚 唯(CT), 山崎 泰樹(CT), 勝平 理子(CT), 小野 寛文(CT), 松本 絵里香(CT), 松本 祐弥(CT), 並木 幸子(CT), 岡村 卓也(CT), 椎名 愛優(MD), 佐藤 陽子(MD), 松嶋 惇(MD), 佐藤 泰樹(MD), 下山田 博明(MD), 上田 善彦(MD), 伴 慎一(MD)
獨協医科大学埼玉医療センター 病理診断科

【はじめに】

腺肉腫は、ミューラー管由来の良性上皮性成分と、低悪性度の肉腫成分が混在する稀な二相性腫瘍である。今回、我々は腺癌との鑑別を要する腺肉腫を経験したので報告する。

【症例】

患者は50歳代、女性、乳癌術後、9年間タモキシフェン（TAM）を服用。術後、定期健診での単純CT画像で子宮体部に腫瘤を認めた。その後MRI検査にて厚さ約65mmの多発嚢胞状の内膜肥厚が認められた。精査目的のため、子宮内膜擦過細胞診が施行された。

【細胞所見】

核腫大を示す異型細胞が、細胞密度が高く結合性の緩い細胞集塊で出現していた。個々の細胞の多くは類円形核を示すものの一部では核形の不整を認め、核クロマチンは微細顆粒状で明瞭な核小体を有していた。以上の所見は類内膜癌を疑いたい細胞像であった。

【組織所見】

肉眼的に黄色軟有莖性、89 x 61 x 37 mm大の腫瘍を認めた。組織学的には類円形～紡錘形を示す腫瘍細胞の増殖内に、異形に乏しい内膜腺様の腺上皮が介在する像を呈しており、横紋筋や軟骨などの異所性組織への分化は認めなかった。拡張した内膜腺様の像や葉状構造が目立ち、periglandular cuffing を思わせる像も認められた。間質の腫瘍細胞の免疫組織化学染色では、ER と PgR がびまん性に陽性、CD117 陰性、αSMA 陰性、サイクリン D1 陰性、CD10 陽性と陰性が混在、Ki67 陽性率は約 20 %であった。以上より、腺肉腫と診断した。

【まとめ】

細胞像を見直すと集団で出現する異型細胞と孤立性に出現する異型細胞は類似しており、低分化な癌とするには細胞の大きさは均一であり、肉腫成分とする方が考えやすい。一般的に細胞診標本において腺肉腫の構成成分は肉腫成分のみを認識できることが多く、本症例においても同様であった。細胞診では肉腫と認識することが重要である。

スライドカンファレンス

【婦人科】

患者：60代 女性

臨床情報：2 経妊 2 経産、53 歳閉経

現病歴：不正出血を主訴に前医受診。細胞診にて疑陽性のため、当院紹介。

検査材料：子宮内膜エンドサーチ（スライド枚数：Pap 6 枚）

【呼吸器】

患者：50代 男性

臨床情報：肺腫瘍

検査材料：気管支洗浄（スライド枚数：Pap 8 枚（内 LBC 2 枚））

【その他】（体腔液）

患者：70代 男性

主訴：呼吸困難，右胸水貯留

既往歴：糖尿病，高血圧，大腸癌術後(17 年前)，1 年半前に膀胱癌・尿管癌に対して手術，術後補助化学療法後

検査材料：胸水（スライド枚数：Pap. 4 枚，Giemsa 1 枚，PAS 1 枚・Alcian 青 1 枚）

標本作製法：引きガラス法

会場・案内図



施設名	レイボックホール RaiBoC Hall (市民会館おおみや)
所在地	〒330-0846 さいたま市大宮区大門町2-118 大宮門街4-8F
お問合せ	TEL. 048-641-6131 FAX. 048-641-6133
アクセス	【大宮駅をご利用の場合】 JR線・ニューシャトルほか 大宮駅東口より徒歩3分
駐車場	※専用の駐車場等はありません。 お車でお越しの場合は、有料の大宮門街駐車場又は近隣の駐車場をご利用ください（市民会館おおみや利用による割引等はありません）。 駐車場に限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。

フロアマップ

6F

理事会会場 集会室10
実行委員控室 集会室8

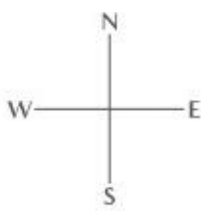


理事会会場
集会室10 (6F)

学会会場
小ホール (7F)

7F

受付 ホワイエ
学会会場 小ホール



- エレベーター
- エレベーター
- エスカレーター
- 階段
- 自動販売機
- ハンドリ
- コインロッカー
- 男性トイレ
- 女性トイレ
- 多目的トイレ
- オストメイト
- 授乳室・おむつ替え
- シャワールーム
- 洗濯ルーム

協賛

武藤化学株式会社

松波硝子工業株式会社

ホロジックジャパン株式会社

アズサイエンス株式会社

第44回埼玉県臨床細胞学会・埼玉県臨床細胞医会学術集会 実行委員・実務委員

学術集会長 金田 佳史 (JCHO 埼玉メディカルセンター 産婦人科)

実行委員長 桂田 由佳 (JCHO 埼玉メディカルセンター 病理診断科)

実行委員 河村 憲一 (JCHO 埼玉メディカルセンター 病理診断科)

金守 彰 (埼玉県済生会川口総合病院)

小林 要 (上尾中央総合病院)

鈴木 隆 (JCHO 埼玉メディカルセンター 病理診断科)

鶴岡 慎悟 (JCHO 埼玉メディカルセンター 病理診断科)

小島 朋子 (自治医科大学附属さいたま医療センター)

急式 政志 (埼玉県立小児医療センター)

松本 健宏 (戸田中央病理診断科クリニック)

実務委員 猪山 和美 (自治医科大学附属さいたま医療センター)

柴田 真里 (上尾中央総合病院)

永井 美悠 (JCHO 埼玉メディカルセンター 病理診断科)

藤澤 美穂 (埼玉石心会病院)

松井 宏江 (JCHO 埼玉メディカルセンター 病理診断科)

和田 彩花 (JCHO 埼玉メディカルセンター 病理診断科)

川口 宏美 (さいたま赤十字病院)

児野 沙都 (JCHO 埼玉メディカルセンター 病理診断科)

野本 伊織 (埼玉県済生会川口総合病院)

船津 靖亮 (株式会社正和ラボラトリー)

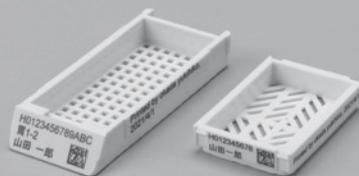
山崎 泰樹 (獨協医科大学埼玉医療センター)

MATSUNAMI Printing Solutions

Laser Cassette Printer

MCP-L1

ESPO II



 松浪硝子工業株式会社

www.matsunami-glass.co.jp



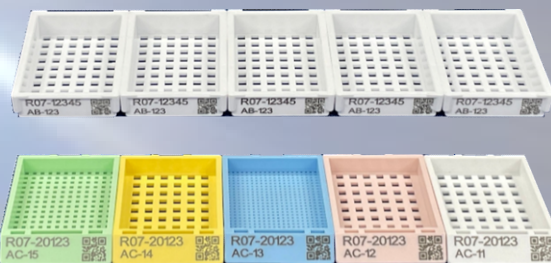
細胞採取から標本作製、
さらに染色からスクリーニング鏡検までをサポート

- POINT1** 従来法に比べ病変検出感度が上昇
- POINT2** 標本作製の自動化による作業効率の向上
- POINT3** 独自の標本作製技術による安定した高品質な細胞診標本の作製

■販売名：ThinPrep Genesisプロセッサ 届出番号：13B1X10179001009 ■販売名：ThinPrep5000プロセッサ 届出番号：13B1X10179001002 ■販売名：ThinPrepイメージングシステム Duo届出番号：13B1X10179001008 ■販売名：ThinPrepインテグレートイメージャ 届出番号：13B1X10179001003 ■販売名：コンバスステイナー 届出番号：13B1X10179001007

レーザーカセットプリンター VESTA

2026年春 発売予定



特長

- ・スモールフットプリント W242xD460mm
- ・スタンダードカセット、スクエアカセットに印刷可能
- ・2本の常設マガジンからカセットを選択印刷
- ・2系統排出 整列排出 or 連続排出
- ・タッチパネル操作



武藤化学株式会社
MUTO PURE CHEMICALS.co.,LTD